正岡小学校構内遺跡

現地説明会資料

平成 26 年９月 24 日（水）

所 在 地：松山市八反地甲 160 番地の一部
調査面積：９５㎡
調査期間：2014（平成 26）年 8 月 28 日（木）～9 月 26 日（金）
調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター
調査担当：埋蔵文化財センター調査員　水本　完児

１．はじめに

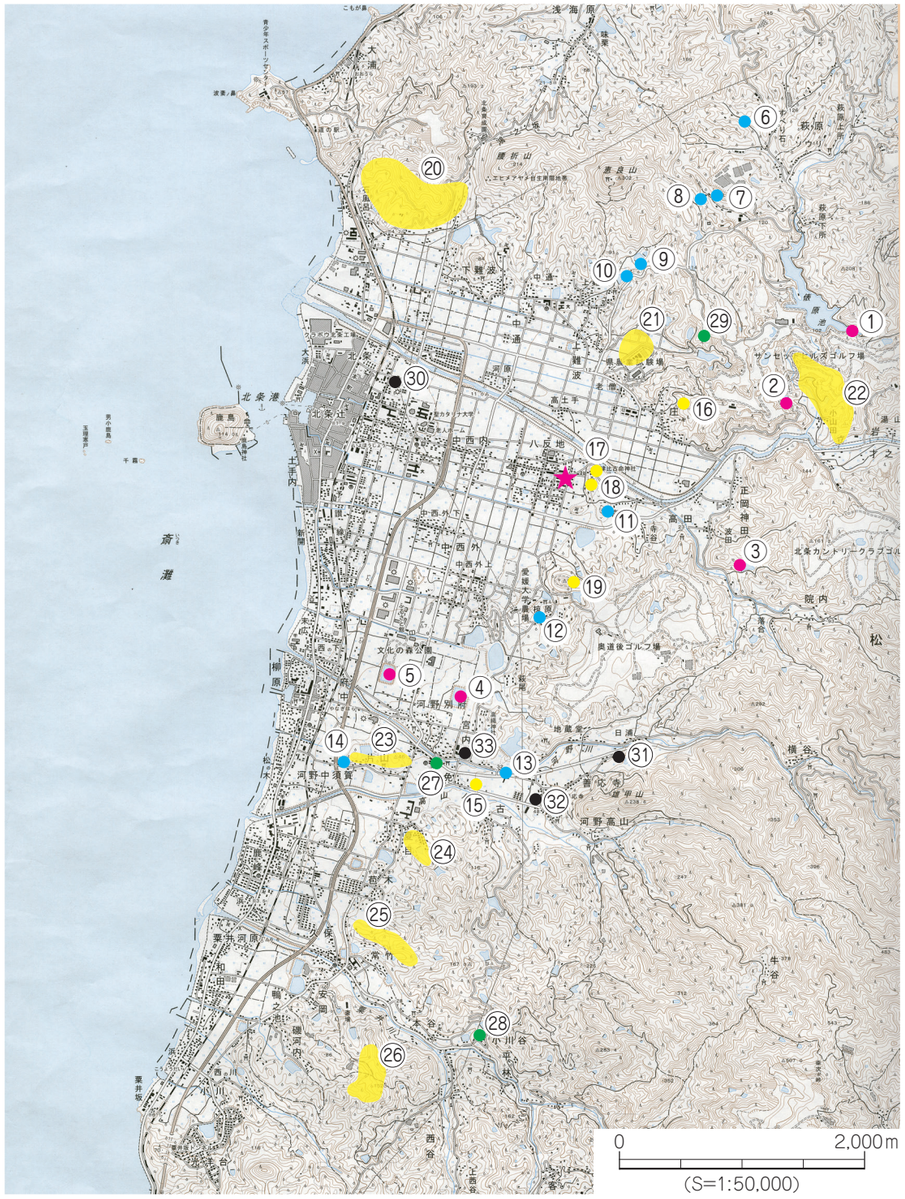
本遺跡は、正岡小学校校舎改築工事に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。遺跡が所在する松山市北条地区では、これまでに数多くの発掘（はっくつ）調査が行われ、縄文時代から中・近世に至る遺跡が発見されています。今回の調査では、平成 26 年７月５日に遺跡の有無を確認するための試掘（しくつ）調査が行われ、室町時代に使用された火鉢や土器が出土しました。これにより、調査地内に遺跡が存在することが明らかになったことから、本格的な発掘調査を実施することになりました。

２．わかったこと

本調査では、室町時代の遺構（いこう）や遺物（いぶつ）を発見しました。遺構は、自然流路（SR）1 条と土坑（SK）1 基、柱穴 10 基を検出しました。遺物は、土師器（はじき）や須恵器（すえき）のほか陶磁器（とうじき）【亀山焼（かめやまやき）・備前焼（びぜんやき）】が出土しました。

SR1 は調査地南半部を北東－南西方向に流れる小さな自然流路で、検出最大幅 5.2 m、深さ 10㎝です。流路内からは室町時代に使用された土師器の坏（つき）や土釜（どがま）のほか、亀山焼の甕（かめ）や備前焼の擂鉢（すりばち）などの破片が出土しています。このほか、調査地西部には土器片が密集して出土する箇所がありました〔土器溜り〕。この中には土師器のほかに亀山焼の破片が含まれていました。なお、発掘調査に先立って実施した試掘調査では、直径 80㎝、深さ 30㎝の土坑（SK1）内に瓦質（がしつ）の火鉢（ひばち）が据え置かれ、火鉢の中からは完形の土師器坏 5 点が重なった状態で出土しました。検出状況から、五穀豊穣（ごこくほうじょう）など地鎮（じちん）に関する祭祀が執り行われたものと推測されます。

今回の調査により、少なくとも室町時代には本遺跡を含む北側エリアに人々が居住する生活空間が存在し、その一方で南側エリアには自然流路や小河川などが流れる状況であったものと考えられます。



★正岡小学校構内遺跡

縄文時代
① 俵原池遺跡
② 小山田遺跡
③ 阿部ヶ谷池遺跡
④ マス池遺跡
⑤ サオ池遺跡

弥生時代
⑥ 稗佐古遺跡
⑦ 菖蒲谷遺跡
⑧ 女夫池遺跡
⑨ 高山遺跡
⑩ 中尾山遺跡
⑪ 南宮ノ戸貝塚
⑫ 椋の原清水遺跡
⑬ 大相院遺跡
⑭ 片山遺跡

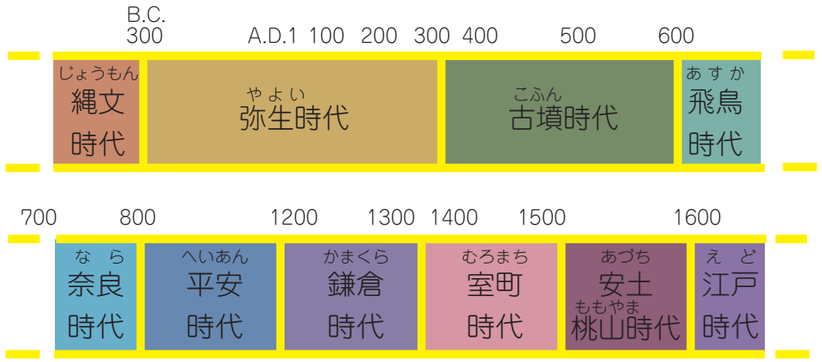
古墳時代
⑮ 北条常保免遺跡
⑯ 奥の谷古墳
⑰ 国津比古命神社
⑱ 櫛玉比売神社古墳
⑲ 高田遺跡
⑳ 新城古墳群
㉑ 上灘波南古墳群
㉒ 小山田古墳群
㉓ 龍徳寺山古墳群
㉔ 夏目古墳群
㉕ 常竹大谷古墳群
㉖ センボ山古墳群

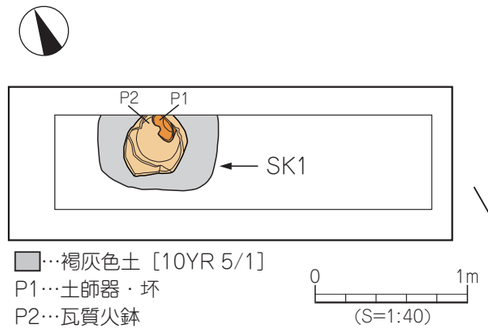
古　代
㉗ 別府遺跡
㉘ 本谷遺跡
㉙ 上灘波古墳群

中　世
㉚ 北条片町遺跡
㉛ 善応寺畦池遺跡
㉜ 善応寺大庭北遺跡
㉝ 河野小学校構内遺跡

第１図　調査地周辺の遺跡分布図

〔時代区分〕

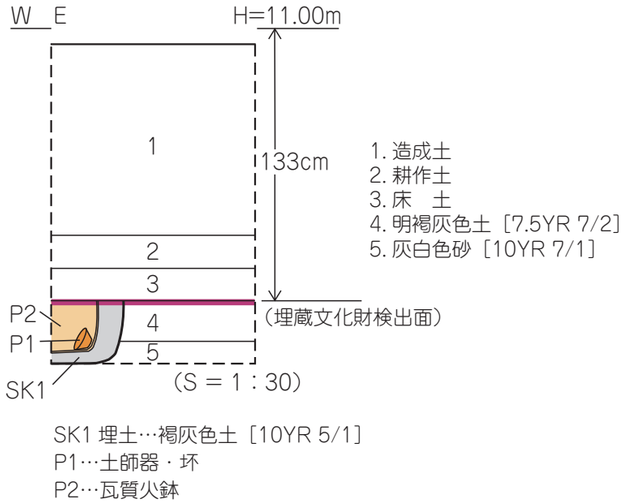




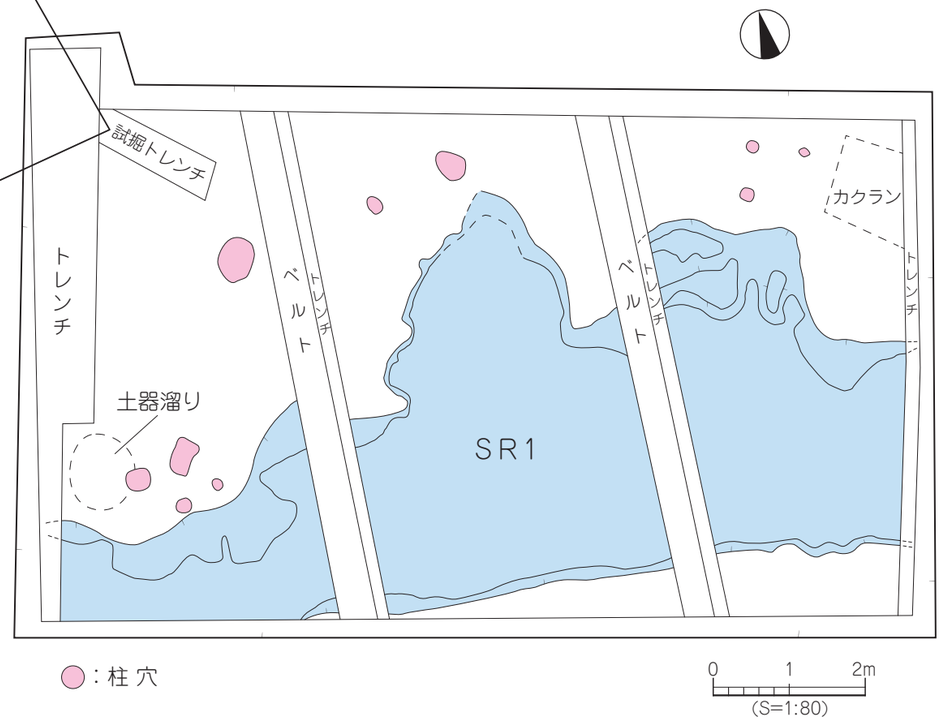
第３図　試掘トレンチ内遺構平面図

写真１　　火鉢出土状況

写真２　　火鉢と土師器坏



第２図　柱状土層図



第４図　遺構配置図

写真３　　調査地全景（南東より）

写真４　　遺構完掘状況（東より）

【用語解説】

遺　跡（いせき）：過去の人類が生活した痕跡の残されている場所や、建造物・土木構造物などが残されている場所。

遺　構（いこう）：竪穴住居や古墳、城郭など、移動させることができない物。

遺　物（いぶつ）：土器や石器、鉄器、木器、骨など移動させることのできる物。

土　坑（どこう）：地中に掘られた小さな穴。食料の貯蔵、ゴミ捨て場等に利用。

土師器（はじき）：古墳時代から使用された赤焼きの土器。

須恵器（すえき）：青灰色の硬く焼き締まった土器。古墳時代の中頃（5 世紀前半）に朝鮮半島から伝わった製作技術をもって焼かれた焼き物。

火　鉢（ひばち）：炭を使用した日本の伝統的な暖房用具。平安時代に中国から伝わる。

土　釜（どかま）：平安時代以降に使用された煮炊き用の器。

亀山焼（かめやまやき）：平安時代の終わり頃から室町時代に、現在の岡山県倉敷市西南部で焼かれた土器。主な製品は甕・壺・鉢。

備前焼（びぜんやき）：平安時代の終わり頃から現在まで、岡山県備前市で焼かれた土器。主な製品は擂鉢・壺・甕。